

2016

Next30 産学
フォーラム

報告書

2017年6月

一般社団法人中部経済連合会

はじめに

Next30 産学フォーラムは、次の 30 年 (Next 30 Years) を担う若手のネットワーク作りを目的とした産学の異分野・異業種交流会です。中経連では、2011 年 10 月より大学に会員として入会いただき、産業界と学界とのより緊密な関係を構築すべく、2012 年 4 月に産学連携懇談会を立ち上げると同時に、「Next30 産学フォーラム」を開始しました。

従来の産業界と学界との繋がりとしては、学会やマッチングイベント等を契機とした共同研究などがありますが、目的が限定されるために関係が単発的になりがちであり、新しい連携の芽を育みにくい側面がありました。また、昨今の人材育成の議論においては、多様な価値観を受け入れられるグローバル人材育成の重要性が指摘されていますが、現状の若手研究者・企業人は、自分の研究分野や職務に没頭しがちであり、外国はおろか、地域の優れた人材との出会いや、多様な思考を受け入れる機会に乏しいのが実態です。

そこで、「Next30 産学フォーラム」では“人的ネットワークづくり”と“多様な価値観に対する気づきの場づくり”を目的に産学の多様な話題を提供しながら継続的に開催し、即物的な成果よりも、まずは相互理解を深め、新たな発想や啓発の機会を作ることに主眼を置いて活動を進めてきました。5 年目となる 2016 年度は、参加大学数は前年度の 18 校から 19 校に拡大し、多様な研究分野の講師陣からご講演頂いた他、グループディスカッションやワークショップによる参加者同士の会話・交流を促す仕掛けづくり、見学会の開催等、参加者に多くの刺激を感じてもらい、かつ見聞を広めてもらう企画を実施してきました。

本報はこの 1 年の概要を記録したものであります。産学連携に携わる方々にとって、一つの参考としてご覧頂ければ幸いです。

2017 年 6 月

一般社団法人中部経済連合会

目次

| | |
|--------------------------------|----|
| 1. 体制・組織 | 3 |
| 2. フォーラム実施概要 | |
| 1) 参加者 | 4 |
| 2) 構成（講演や各種の企画イベント） | 5 |
| 3) フォーラムの雰囲気 | 6 |
| 3. 参加者の声（アンケート結果まとめ） | |
| 1) 参加のきっかけ、目的 | 8 |
| 2) 講演への意見 | 9 |
| 3) グループディスカッション・ワークショップへの意見 | 11 |
| 4) 話題提供への意見 | 14 |
| 5) 大学と企業との共同発表への意見 | 15 |
| 6) 見学会への意見 | 16 |
| 7) その他自由意見 | 18 |
| 8) 満足度 | 19 |
| 4. フォーラムでの新たな取り組み | |
| 1) 他地域でのフォーラム開催（豊橋市、第27回フォーラム） | 20 |
| 2) 大学での準備会の開催 | 21 |
| 3) コアメンバー対象の企業見学会 | 22 |
| 5. フォーラム活動から派生した事例 | 23 |
| 6. 総括 | 23 |

1. 体制・組織

2016年度は会員となって戴いている19大学より、文科系・理科系のバランスを考慮しながら、産学交流に関心の高い新進気鋭の先生を1名ずつご推薦いただき、以下のコアメンバーを組織した。基本的には隔月で奇数月にフォーラムを開催し、フォーラムの運営・企画について調整する準備会をフォーラム翌月（偶数月）に開催した。内容についてはアンケート等で振り返り、改善案を次のフォーラムに反映させる仕組みとした。

表1 2016年度コアメンバー

| 大学 | 所属 | 役職 | 氏名 |
|----------|-------------------------------|-------|--------|
| 愛知県立芸術大学 | 音楽学部 | 准教授 | 鈴木 謙一郎 |
| 愛知県立大学 | 情報科学部 情報科学科 | 准教授 | 小林 邦和 |
| 愛知工業大学 | 工学部 応用化学科 | 准教授 | 糸井 弘行 |
| 愛知淑徳大学 | 創造表現学部 | 准教授 | 宮田 雅子 |
| 愛知大学 | 経営学部 | 准教授 | 一木 毅文 |
| 岐阜大学 | 応用生物科学部 | 准教授 | 柳瀬 笑子 |
| 岐阜薬科大学 | 医療薬剤学大講座 臨床薬剤学研究室 | 助教 | 神谷 哲朗 |
| 金城学院大学 | 薬学部 薬学科 | 准教授 | 宮澤 大介 |
| 大同大学 | 教養部 人文社会教室 | 准教授 | 松木 孝文 |
| 中京大学 | 経済学部 | 准教授 | 平澤 誠 |
| 中部大学 | 工学部 電子情報工学科 | 准教授 | 保黒 政大 |
| 豊橋技術科学大学 | 電気・電子情報工学系 | 助教 | 東城 友都 |
| 名古屋学院大学 | 経済学部 | 准教授 | 黒田 知宏 |
| 名古屋経済大学 | 経済学部 | 准教授 | 大塚 雄太 |
| 名古屋工業大学 | 大学院工学研究科電気・機械工学専攻 工学部電気・機械工学科 | 准教授 | 田中 由浩 |
| 名古屋市立大学 | 人間文化研究科 | 准教授 | 林 浩一郎 |
| 名古屋大学 | 未来社会創造機構 | 特任准教授 | 石黒 祥生 |
| 南山大学 | 総合政策学部 | 准教授 | 三輪 まどか |
| 名城大学 | 理工学部 応用化学科 | 助教 | 池邊 由美子 |

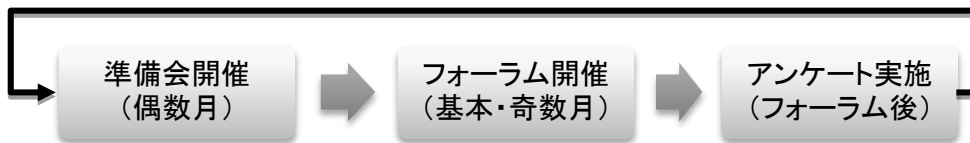


図1 活動のステップ

表2 2016年度活動実績

| | 第25回 | 第26回 | 第27回 | 第28回 | 第29回 | 第30回 | 第31回 |
|-------|------|------|-------|------|------|------|------|
| 準備会 | 4/18 | 6/17 | 8/23 | 10/4 | 12/8 | 12/8 | 2/9 |
| フォーラム | 5/27 | 7/28 | 12/12 | 11/8 | 1/24 | 2/20 | 3/21 |
| アンケート | 5/30 | 7/29 | 12/13 | 11/9 | 1/25 | 2/21 | 3/22 |

※第27回フォーラムは、9月開催予定が台風より延期したため、12月に開催
 ※第29回・第30回の準備会は、合同で実施

2. フォーラム実施概要

1) 参加者

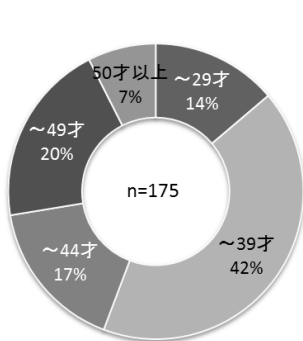
フォーラムは計7回開催し、1回あたり平均31名、延べ216名が参加した。参加者は40歳代前後が中心で、「研究・開発」や、「営業・人事・企画」などを中心に様々な職種の方々に参加頂いた。各回において初参加の割合は平均で37%であり、年間の参加者全体のうち約3割の方は複数回参加している。

表3 参加者概要

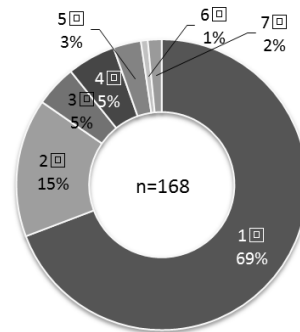
| | 日時 | 場所 | 全体 | | 企業 | | | 大学 | | | |
|-------|-------|-----|-----|---------|----|-----|---------|----|----|----------|---------|
| | | | 総数 | 新規 | 社数 | 人数 | 新規 | 校数 | 人数 | コアメンバー除く | 新規 |
| 第25回 | 5/27 | 中経連 | 38 | 13(34%) | 11 | 20 | 9(45%) | 13 | 18 | 6 | 4(22%) |
| 第26回 | 7/28 | 中経連 | 30 | 11(37%) | 12 | 18 | 8(44%) | 8 | 12 | 4 | 3(33%) |
| ※第27回 | 12/12 | 豊橋市 | 27 | 16(59%) | 13 | 18 | 13(72%) | 7 | 9 | 6 | 3(33%) |
| 第28回 | 11/8 | 中経連 | 24 | 8(33%) | 11 | 16 | 8(50%) | 8 | 8 | 0 | 0(0%) |
| 第29回 | 1/24 | 中経連 | 31 | 8(26%) | 12 | 19 | 7(37%) | 11 | 12 | 1 | 1(8%) |
| 第30回 | 2/20 | 芸術大 | 30 | 10(33%) | 11 | 15 | 7(47%) | 12 | 15 | 4 | 3(20%) |
| 第31回 | 3/20 | 中経連 | 36 | 13(36%) | 16 | 24 | 11(%) | 7 | 12 | 5 | 2(17%) |
| 計 | | | 216 | 79(37%) | 86 | 130 | 63(48%) | 66 | 86 | 26 | 16(19%) |

※9月20日の開催予定が台風のため延期し12月12日に実施

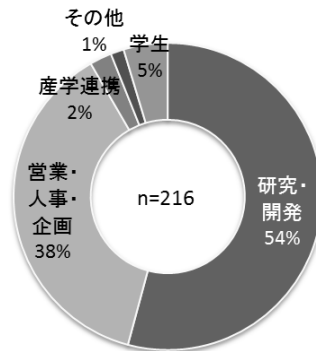
平均年齢 38.7歳



(a) 年齢構成



(b) 参加回数



(c) 職種構成

図2 参加者属性

2) 構成（講演や各種の企画イベント）

フォーラムはコアメンバーによる講演と、懇親会を柱とし、参加者同士の交流を促すことや、参加者の見聞を広めることを主眼とした企画を織り込んだ構成とした。

内容としては、毎回、2～3名のコアメンバーが、講演の他、グループディスカッションやワークショップ、大学と企業との共同発表を通して自身の研究内容を紹介した。その他に、企業等からの話題提供や、大学での施設見学会を行った。

表4 プログラム一覧

| | | 講演・話題提供タイトル等 | 講師 |
|------|---------------------|--|---|
| 第25回 | 講演 | アダム・スミスの虚像と実像 -彼は「経済学者」だったのか? | 名古屋経済大学 経済学部 准教授 大塚 雄太 氏 |
| | | レオパレス21における産学連携の取り組みについて | 株式会社レオパレス21 学校法人営業部 中部ブロック マネージャー 中田 悟司 氏 |
| | 講演& グループディスカッション | フォースの覚醒が導く医療 ～多角的に物事を捉える楽しさ～ | 岐阜薬科大学 医療薬理学大講座 臨床薬理学研究室 助教 神谷 哲朗 氏 |
| 第26回 | 講演 | 原子レベルで構造を制御したエネルギー貯蔵・変換材料の高性能化 | 愛知工業大学 工学部 応用化学科 准教授 糸井 弘行 氏 |
| | | 地域との連携における障壁とその迂回 | 大同大学 教養部 人文社会教室 准教授 松木 孝文 氏 |
| | 講演& グループディスカッション | 人とコンピュータ クルマが人を超えるとき | 名古屋大学 未来社会創造機構 特任准教授 石黒 祥生 氏 |
| 第27回 | 講演 | 日本における企業統治の変容 ～取締役会と企業業績～ | 愛知大学 経営学部 准教授 一木 毅文 氏 |
| | | 大学と企業との共同発表 材料の魅力 ～身近な電池の構成材料と車載用電池の高安全・長期利用～ | 豊橋技術科学大学 電気・電子情報工学系 助教 東城 友都 氏 スズキ株式会社 環境・材料・生産技術開発部 第四課 密岡 重日 氏 |
| 第28回 | 講演 | 脂質栄養と健康 ～あぶらについて考える～ | 金城学院大学 薬学部 薬学科 准教授 宮澤 大介 氏 |
| | | 少子高齢化と年金制度 ～経済学で考える～ | 中京大学 経済学部 准教授 平澤 誠 氏 |
| 第29回 | 講演 | 高齢者の契約をめぐる現状と課題 ～企業・家族が押さえておきたいポイント～ | 南山大学 総合政策学部 准教授 三輪 まどか 氏 |
| | | 生体認証技術 ～誰でも簡単・安全に使える鍵～ | 中部大学 工学部 電子情報工学科 准教授 保黒 政大 氏 |
| | 講演& ワークショップ | 伝えるデザイン ～コミュニケーションの理論と実践～ | 愛知淑徳大学 創造表現学部 准教授 宮田 雅子 氏 |
| 第30回 | 施設見学 | 法隆寺金堂壁画模写展示館 | — |
| | 講演 (ピアノコンサート) | ロシアンピアニズムの継承 ～音楽の秘境 ウクライナ～ | 愛知県立芸術大学 音楽学部 准教授 鈴木 謙一郎 氏 |
| 第31回 | 講演 | 「リニア・インパクト」を見据えたエリアリノベーション ～名古屋駅西側の再編をめぐる「まちづくり体制」の構築～ | 名古屋市立大学 人間文化研究科 准教授 林 浩一郎 氏 |
| | | 重さ感の違いから考える 触感デザインの可能性 | 名古屋工業大学 大学院工学研究科電気・機械工学専攻 工学部電気・機械工学科 准教授 田中 由浩 氏 |
| | ポスターセッション | 生活習慣病を予防する植物成分 ～ポリフェノールの可能性～ | 岐阜大学 応用生物科学部 准教授 柳瀬 笑子 氏 |
| | | 諸個人の自由と社会的秩序 ～モラルはどこにあるのか?～ | 名古屋経済大学 経済学部 准教授 大塚 雄太 氏 |

3) フォーラムの雰囲気

○第25回



大塚 准教授
(名古屋経済大学)



神谷 助教
(岐阜薬科大学)



グループディスカッションの様子

○第26回



糸井 准教授
(愛知工業大学)



松木 准教授
(大同大学)



石黒 特任准教授
(名古屋大学)



(上:懇親会時の研究紹介)
(下:グループディスカッションの様子)

○第27回



一木 准教授
(愛知大学)



東城 助教
(豊橋技術科学大学)



(上:懇親会の様子)
(下:懇親会時の研究紹介)

○第28回



宮澤 准教授
(金城学院大学)



平澤 准教授
(中京大学)



質疑応答の様子

○第 29 回



三輪 准教授
(南山大学)



保黒 准教授
(中部大学)



宮田 准教授
(愛知淑徳大学)



ワークショップの様子

○第 30 回



鈴木 准教授
(愛知県立芸術大学)



見学会の様子
(法隆寺金堂壁画模写展示館)



懇親会の様子

○第 31 回



林 准教授
(名古屋市立大学)



田中 准教授
(名古屋工業大学)



(上：懇親会の様子)
(下：ワークショップの様子)

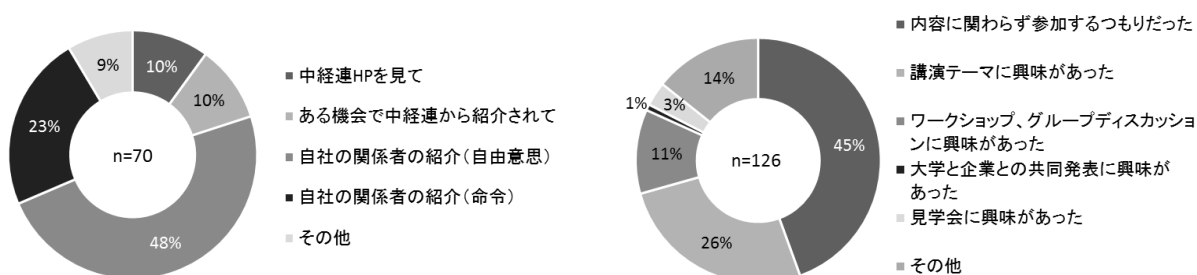
図 3 フォーラムの様子

3. 参加者の声（アンケート結果まとめ）

1) 参加のきっかけ、目的

参加募集は、会員企業へのチラシ郵送、メールマガジン、参加履歴のある方へのメールのご案内などで行っており、各回において参加者全体の約3割の方が新規で参加している。きっかけとしては、社内の関係者からの紹介が約7割を占めているが、業務命令としてではなく自由意思で参加する方が多い。また、2回以上参加されている方は、「内容に関わらず参加するつもりだった」が4割を占め、次いで「講演テーマに興味あった」が2割となっている。多くの方は、普段触れることができない知識や新たな気づきを得るために、高い目的意識をもって参加している。

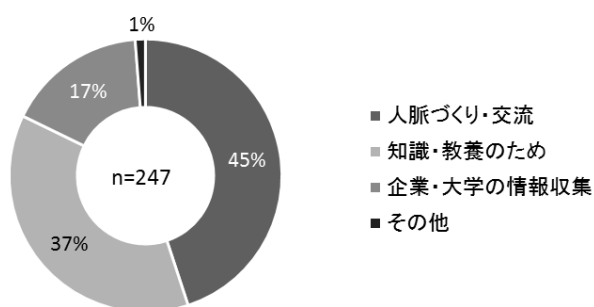
また、参加にあたっての目的・期待としては、「人脈づくり・交流」がトップで、次いで「知識・教養のため」となっている。例年の傾向ではあるが、参加者の多くが「人的ネットワークの形成」や「多様な価値観に対する気づき」等が得られる場として、フォーラムに参加している。



(a) 初参加の方

(b) 2回以上参加されている方

図4 参加のきっかけ



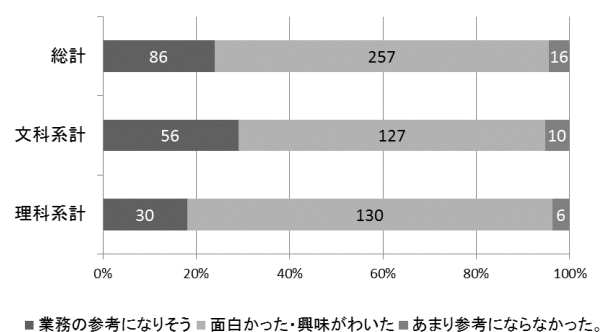
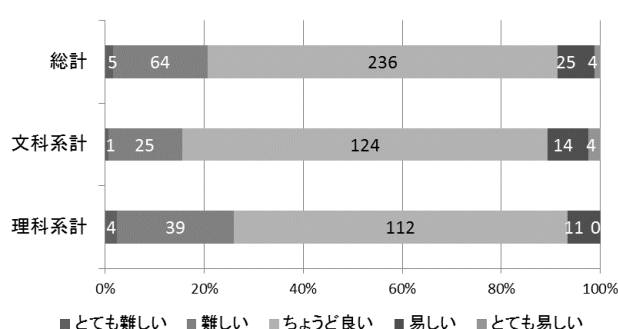
(c) 参加の目的・期待

図5 参加の位置づけ、狙い

2) 講演への意見

講演は文科系・理科系のコアメンバーより、多岐にわたる研究分野を紹介して参加者に多くの気づきを提供した。

講演の難易度は、理科系の講演において2割の参加者から「難しい」という回答があったが、全体では約8割の参加者から「ちょうど良い」などという回答を頂いた。また、講演の感想は、「業務の参考になりそう」「面白かった・興味がわいた」という回答が9割に上り、専門外の分野でも多くの参加者がコアメンバーの研究内容について理解を深めた。自由意見では、講演自体の面白さ・分かりやすさの他に、今後の研究成果への期待、演奏への深い感動など、数多くの高評価を頂いた。



(a) 講演の難易度

(b) 講演の感想

(c) 自由意見 (○：企業の意見 ●：大学の意見)

<異分野の講演は興味深い、勉強になった>

○全体的な構成を考慮して聞く側として大変分かりやすく興味を持つ講演でした。人物像をひも解く中で、一点にとらわれる事なく様々な観点から見つめる事により、本当の人物像が表れてくる面白い講演でした。

●自動運転に関する研究というとコンピュータやネットワーク、機械工学の技術が中心のように思っていたのですが、人や社会にかかわる多岐にわたる検討や研究が必要だということに気づき、とても勉強になりました。またデモも拝見させていただき、ご研究の内容を身近に感じることができました。

●身近なテーマについて、研究に基づく専門的な話を聴くことができる機会は少ないので、大変有益でした。どんな研究が行われていて、どんな結果が得られているのかなど、ご紹介いただいたデータも大変興味深かったです。また、日頃の食事と自分の健康について考え直すよいきっかけとなりました。ありがとうございました。

<感動した・有意義な時間を過ごせた>

○多忙な日常生活を忘れ、心の贅沢をさせていただきました。音楽のことはわかりませんが、非常に良い心に響く、よい演奏・音響だったと思います。

●プロフェッショナルな素晴らしい演奏を間近で聴かせていただき、ありがとうございました。トークを交えて客席の雰囲気や和らげようとしてくださっているのがよくわかり、先生のお人柄の良さが出てると感じました。

<丁寧な説明で分かり易かった>

- わかりにくい専門用語には、説明のなかで解説があり、わかりやすい説明でよかった。
- まったくの門外漢ですが、お話の内容が興味深く、また具体的な例などを示していただいたおかげでもわかりやすく、楽しく拝聴いたしました。
- 普段なじみのない用語が多くて資料を拝見しただけでは難しそうに感じましたが、素人にもわかりやすくかみ砕いて説明してくださり、ありがとうございました。時間に対しての内容の分量もちょうど良く、とても聞きやすかったです。勉強になりました。

<今後の取り組みに期待>

- まだ実現できていない“できたら良いこと”を想像することによってニーズを生み出し、それが技術開発のきっかけになると思いました。
- 個人的に興味のある内容だったので、楽しく拝聴しました。技術的な難しい部分ではなく、実生活への適用などを含めてご説明くださったので、とてもわかりやすかったです。実際のご研究ではもっと専門的で難しい課題があるとは思いますが、今後の進展についても機会があればお話を伺ってみたいです。
- 触感を定量的に扱う技術が存在することを今回初めて知った。今後どのように発展していくのかが楽しみである。

<もう少し詳しく聞きたい>

- 自分自身も、都市工学の専門の方と協働して多少まちづくりに関わる実践活動などをおこなっているのので、具体的な事例をご紹介くださり、とても興味深く拝聴いたしました。最後にお話しされていた、人との関係を編みあげるという考え方に共感したので、そうした専門的な知見をもう少しお伺いしたかったです。
- 健康には特に気になる年頃ですので興味を持って拝聴致しました。質問にもありましたが研究の結果わかったベストな食材、レシピなど具体的な提案があればよかったと思います。
- 具体的に先生のおっしゃる通りに進めるべきと思いますが、進めていくにつれて、多様な意見が出てきて調整するところが難しいと思います。その困難な調整部分の工夫や乗り越え方を知りたかった。その部分を調整した上で、まちづくりが進められればすごいことだなと思います。

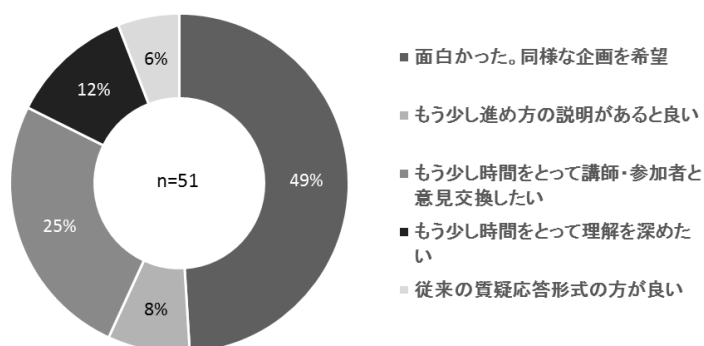
図6 講演への意見

3) グループディスカッション・ワークショップへの意見

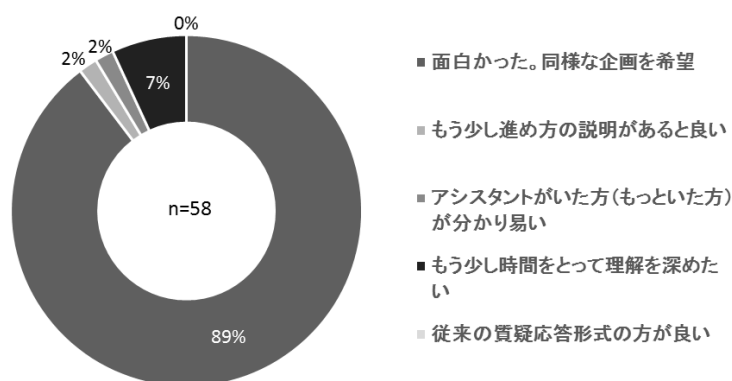
昨年度に引き続き今年度も、グループディスカッション(第25回、第26回)や、ワークショップ(第29回、第31回)を積極的に取り入れ、参加者同士の会話・交流を促すきっかけづくりに努めた。

グループディスカッションでは、面白かったという意見が約半数に上り、同様な企画を希望する等といった意見を頂いた。一方で、「もう少し時間を取って意見交換をしたい」という意見も約2割頂いており、講師からの発表とディスカッションの時間配分について指摘があった。

ワークショップでは、面白かったという意見が約9割を占め、多くの方に好評を頂いた。また、自由意見では、「業務の参考にしたい」「楽しい、有意義な時間が過ごせた」等といった意見を頂いた。



(a) グループディスカッション感想 (第25回、第26回の合計)



(b) ワorkshop感想 (第29回、第31回の合計)

(c) 自由意見 (○：企業の意見 ●：大学の意見)

【グループディスカッション】

＜興味深い・勉強になった＞

●自動運転に関する研究というとコンピュータやネットワーク、機械工学の技術が中心のように思っていたのですが、人や社会にかかわる多岐にわたる検討や研究が必要だということに気づき、とても勉強になりました。またデモも拝見させていただき、ご研究の内容を身近に感じることができました。

＜自分の業務を見つめなおすきっかけになった＞

○自分の仕事を「今の角度」とは「異なる角度」から考えるという、既存の概念を払しょくし、新たな視点から物事を見つめなおす初めての試みであり、他社の方々からのコメントも非常に参考になった。このようなディスカッションは、業務の専門性にとらわれない議論も可能であり、非常に有意義に時間を過ごすことができました。

＜楽しくディスカッションできた、緊張がほぐれた＞

●非常に知的好奇心をくすぐる内容で面白かった。文系でも十分に楽しんで参加できたし、GDの問題設定はむしろ文系的であったので、個人的には学際的な発展可能性もあるのかなと思った。
●初めての参加で、会の様子が全く分からない中でしたが、グループディスカッションがある事によって、緊張がほぐれました。

＜時間配分等について＞

○グループディスカッションは時間が足りていなかったもので、プレゼンとの時間配分が課題かと思われました。

【ワークショップ】

＜興味深い・勉強になった＞

○ご講演&ワークショップとも素晴らしい内容で、引き込まれるままに参加できました。歴史からひも解くデザイン考⇒世界共有のサイン誕生へ、のあたりがご講演では特に興味深かったです。
○人間の感覚は測定器の様に絶対値では無く環境に左右される相対値だと言う事を再認識しました。

＜業務の参考にしたい＞

○情報を伝達することの難しさ、不確かさなど、理解している内容の再確認ができ、今後の業務（部下に対しての業務付与、方向性の指示や注意事項など）に活用できる内容でした。
●講演・ワークショップともに非常に有意義な時間を過ごすことが出来た。「もの」そのものの性質ではなく、それをどう捉えるかという議論は多方面に通じるところがあると思うので、今後の業務に反映させていきたい。

＜楽しい、有意義な時間が過ごせた＞

●ワークショップを通して企業の方や大学教員の方々とコミュニケーションがとりやすかったので、それも相まって面白かったです。
○ワークショップ形式の講演が周りの方々と打ち解けることができ非常に良かったです。

＜もう少し詳しく聞いてみたい＞

○レゴを使ったワークショップは楽しく取り組めたが、最後に「ではどうすればうまく伝わったのか」といった解答編にもう少し時間が割かれていると尚良かった。
●普段は工作する機会はないので童心に戻って楽しめた。他の参加者の作品を見るのも楽しかった。先生の研究も面白そうで、研究の話聞く時間ももっと多く欲しかった。

図7 グループディスカッション・ワークショップへの意見

(d) グループディスカッションの様子



グループ毎に座って
意見交換を行う参加者



模造紙に書き込んだ
内容を発表する参加者

図8 左写真(第25回フォーラム)、右写真(第26回フォーラム)

(e) ワークショップの様子



レゴブロックを使ったアクティビティ
を体験する参加者

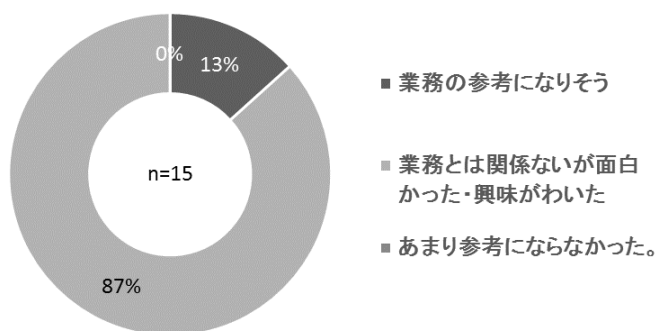


断熱材を加工して重さ感の
違いを体験する参加者

図9 左写真(第29回フォーラム)、右写真(第31回フォーラム)

4) 話題提供への意見

話題提供は、フォーラムに参加する企業・団体の方々からお話しして頂いている。第25回では、フォーラムに参加した会員企業よりお話ししていただき、多くの参加者から好評を得た。参加者からは、多岐にわたる活動への驚きを含めて、以下のような意見を頂いた。



(a) 話題提供の感想

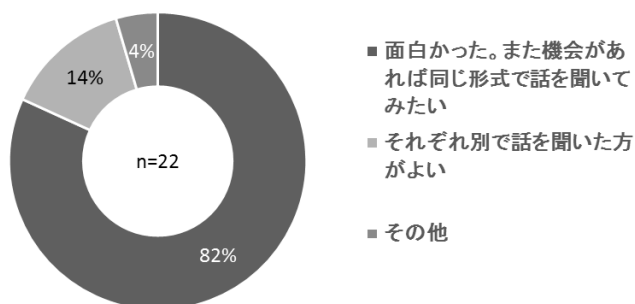
(b) 自由意見 (○：企業の意見、●：大学の意見)

| |
|--|
| <p><興味深い></p> <p>○話題提供いただいた産学連携活動による企業イメージ向上・就職希望者への働きかけなど、<u>非常に良い仕掛けであると思います。</u></p> <p>●多様な業務展開をほとんど知らなかったが、<u>産学連携の可能性をオムニバス講義などの構築も含めて実感できたことは有益だった。</u></p> <p><多岐にわたる活動に驚いた></p> <p>○物件を借りる・貸すだけに留まらず、繋がりを大事にしており、<u>利益だけに囚われることなく、多方面で貢献されている事が素晴らしいと思いました。</u>護身術や発表の場を設置するなど、産学連携について積極的に取り組まれており、企業や学校との信頼関係も強く、会社としての強みを生かしていると感じました。</p> <p>●住宅関係の仕事のみと思っていたが、<u>就職支援など多岐にわたる活動をしていて驚いた。</u></p> <p><今後の取り組みに期待></p> <p>○各地での様々な業界と連携した多様な取り組みを知り、<u>驚きました。今後、継続した取り組みとして根付いたことや、その成果が出てきたことがあれば、お教えいただきたいです。</u></p> |
|--|

図 10 話題提供への意見

5) 大学と企業との共同発表への意見

今年度からの新規の企画として、大学と企業が共同で研究・開発している取り組みをコアメンバーと企業の担当者から発表していただいた。第27回において実施し、多くの参加者から好評を得た。特に、企業の担当者から共同研究を進める上でのメリットや問題点・課題についてコメントをいただき、多くの関心を集めた。



(a) 大学と企業との共同発表に対する感想

(b) 自由意見 (○：企業の意見、●：大学の意見)

<興味深い・勉強になった>

- 技術に疎い人にもわかるようにお話くださり、とても勉強になりました。今回のように、大学と企業との共同研究についてご紹介いただけると、同じ技術についても立体的に理解することができ、とても興味深く感じました。
- 現存する資源・材料を効率的に使用していくプロセスに興味があった。また、現在のニーズにとどまらず、次世代のニーズを模索していく大切さを実感することが出来た。

<共同研究のメリットや問題点・課題が聞けて良かった>

- 大学と企業の連携の実情を両方向から知れて参考になりました。特に連携の難しいポイントについてのお話しが印象的でした。
- 内容がかなり専門的で難しい部分が多かったですが、実際の産学連携されている事例・その経緯やメリットを拝聴することができて良かったです。
- 大学と企業の共同研究で行われている、電池の研究という分野は身近な車に利用されているのに、気にかけたことがない話だったので大変参考になりました。とくに印象に残っているのが、大学と企業の研究内容の取扱い方です。発表したい大学と隠したい企業での協力していく上での問題みたいのを詳しく聞いて見たいと思いました。

<今後の取り組みに期待>

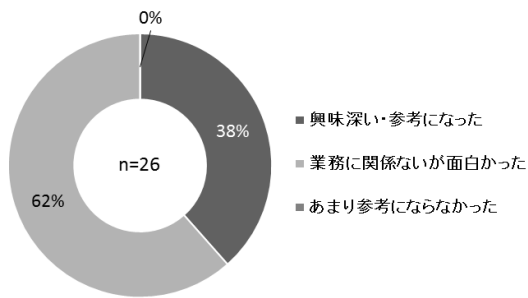
- 難しい話ではあったが、普段使っている電池の仕組みから、これからの使われていくであろう未来の使い方も知ることができて、とてもよかった。

図 11 大学と企業との共同発表への意見

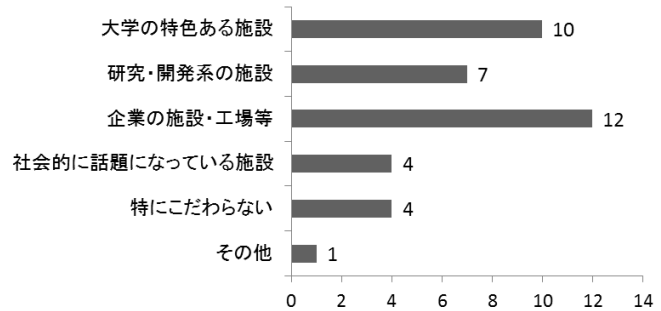
6) 見学会への意見

今年度は、参加者の見聞を広める企画として、愛知県立芸術大学（第30回）において、施設見学会を併せて実施した。

参加者からは、「有意義であった」「完成度の高さに感銘を受けた」という回答が多数を占めた。また今後も、「大学の特色のある施設」「企業の施設・工場等」を見学したいという意見や、その他・自由意見においても、「施設見学の継続を希望」という意見が寄せられた。



(a) 見学会の感想



(b) 今後、見学したいところ

(c) 自由意見 (○：企業の意見 ●：大学の意見)

<有意義な見学会だった>

○10年以上かけて模写を続けたという説明を伺うと、見えてくるものが違うように感じました。スタッフのかたの説明も熱が入っており、自分で見に行くよりは感性に訴えるものが多かったように感じます。芸術分野に詳しくない素人ですが、今回の機会に気軽に芸大さんへお邪魔することができたことは、とても有意義だったと思います。

●文化財伝承の観点から、県芸大で大変意義のある活動をされていることや、中経連がそのような活動へ協力的だということもはじめて知りました。

<完成度の高さに感銘を受けた>

●非常に時間をかけた緻密で膨大な作業と完成度の高さに感銘を受けました。模写や保存・修復を専門とするわけではない学生たちが取り組んだものとお聞きしましたが、個人の描きたいものを描くだけでなく、古典とじっくり向き合う機会があるというのは、教育プログラムとしても重要なことだと感じました。

○製作年度（期間）が2年～最高5年、模写作品にビックリ！模写手順や技術について知りたくなりました。

<施設見学の継続を希望>

○事務局の方々に多謝です。日常の業務とは関連しないものの、非常に有意義な見学会であったと思います。たまには、このような業務に直結しない見学会も視野拡大に有益であるため、継続的な実施が望まれます。

●芸術系の大学を見学できる機会はあまりないので、このような機会はたいへん有難かったです。これからもこのような企画があると有難いと思いました。

図12 見学会への意見

(d) 見学会の様子



展示館内を見学する参加者

図 13 第 30 回フォーラム（愛知県立芸術大学・法隆寺金堂壁画模写展示館）

7) その他自由意見

図 14 自由意見 (○：企業の意見 ●：大学の意見)

<有意義な時間が過ごせた>

- 大学と企業の意見交換の場として、大変貴重。業務に直接的に関係することではなくても、話のネタになるような事も多く、今後も参加させて頂きたいと思います。
- 大変有意義なフォーラムを企画いただき感謝しております。まったく業務に関係のないテーマだからこそ興味を掻き立てられ、人脈も広げられて大いに活用させていただいております。引き続きよろしくお願い致します。
- 毎回さまざまなご専門のお話を伺うことができるので、普段の研究上のセミナーなどと違って思わぬ発見もあり、とても楽しく参加させていただいております。また、企業の方々とお話しさせていただくことで、学問が大学という場の中に閉じたものであってはいけないという思いが強くなりました。

<参加者同士が交流できる企画を希望>

- 今回のようなグループディスカッションは、懇親会での意見交換の雰囲気作りにも 有益であり、今後もこのようなディスカッションも期待したい。
- ワークショップがある時には、ない時と比べて、とても雰囲気がよくなると感じている。教養をつけるのも大事なことだが、自分は交流を第一の目的としているので、毎回ワークショップを導入してほしい。
- 毎回、同じテーブルの参加者と少しでも話せる仕組みがあると嬉しいです。懇親会は、毎回なんとなく堅苦しく感じます。もっとざっくばらんに話せる仕掛けがあれば良いと思います。

<テーマ設定について>

- 隔月での開催は幹事にとって大変と思いますが是非継続をして頂きたい。工学系一辺倒ではなく、今回のように文科系のテーマも継続して取り上げて欲しい。
- 多岐に渡る研究分野の発表をお聞きしたいですが、開催回ごとの講演テーマについては分野統一が良いと思います。その方が研究者の先生方と企業とのマッチング精度があがり、フォーラム後の協働にも繋がりがやすくなると感じました。

<質疑時間について>

- 演者の話す時間にもよるが、質問時間をもう少し長くしてほしい。
- 「ご講演＋グループディスカッション」の場合でも、ご講演内容に関して質問ができる時間が多少はあった方がよいように思いました。

<懇親会について(時間、料理内容など)>

- 懇親会は、大変貴重な情報交換の場であると感じましたので、今後ともよろしくお願い致します。
- 講義時間を減らし、フリーディスカッション(懇親会)の時間を増やしても良いのではないかと思います(参加者の皆様との親睦を深める時間を増やしたいため)。
- 懇親会での食事にもう少し気を配った方がよいのではないのでしょうか。今後、女性の先生方や企業からも女性の方々の参加が増えてくる可能性も考えると、なおさらそう感じます。

<企業・団体 PR コーナーの活用について>

- 懇親会の場で企業PRをさせて頂け、認知度UPに繋げることで大変良かったです。
- 大変有意義な時間を過ごすことができ感謝しております。積極的に自社PRされている方もありビジネスチャンスを広げる場としても有効であると感じました。

8) 満足度

約6割の参加者から「ぜひ次回も参加したい」と回答をいただき、比較的高い満足度が得られた。

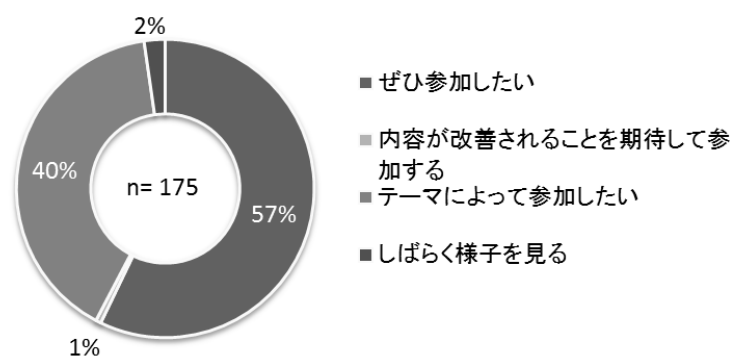
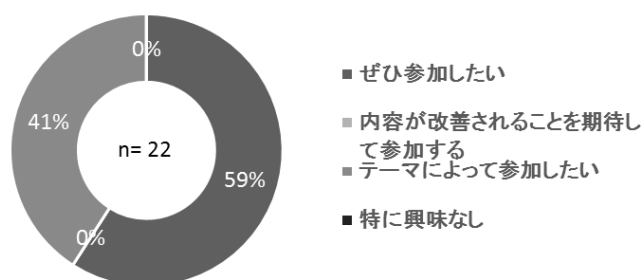


図 15 次回への参加意欲

4. フォーラムでの新たな取り組み

1) 他地域でのフォーラム開催（豊橋市、第27回フォーラム）

これまで隔月で名古屋市・栄を中心に実施してきた本フォーラムを他の地域の方にも知っていただくため、また当該地域の産学の交流の一助になればとの思いから、初めて豊橋市で開催した。参加者からは、「産学連携の場として、有意義に感じた」「とてもいい経験になった」といった意見を頂いた。また、次回も豊橋市で開催する場合、約6割の方から「ぜひ参加したい」と評価を頂いた。



(a) 次回への参加意欲（豊橋市での開催について）

(b) 自由意見（○：企業の意見、●：大学の意見）

<有意義な時間が過ごせた>

- 産学連携の場として、有意義に感じた。人文・社会科学系の大学講師と企業との共同研究の機会が広がることも期待したい。
- 時間配分もちょうど良く、とてもいい経験になりました。質問者の考える所も鋭くすごいなと感じた。
- 懇親会の場が、講演者と参加者が気軽に対話できる雰囲気であり、とても有意義でした。

<講演時のレイアウト（4名1卓）について>

- グループ単位で、テーブルでお菓子を囲んで行なう今回の形式はリラックスして講演を聴けますし、同じグループの方とも交流ができるので、よいと思います。

<交流を促す仕掛けづくりを>

- フォーラムは、今回で2回目の参加ですが、毎回、同じテーブルの参加者と少しでも話せる仕組みがあると嬉しいです。懇親会は、毎回なんとなく堅苦しく感じます。もっとざっくばらんに話せる仕掛けがあれば良いと思います。

図 16 第27回フォーラムへの意見

2) 大学での準備会の開催

偶数月に開催する準備会は、これまで中経連の会議室だけで実施していたが、2016年度は8月(愛知県立大学)と10月(岐阜大学)に、コアメンバーが所属する大学の会議室で実施した。会議終了後は、学内の研究室等を案内していただき、ご自身の大学の取り組みを紹介して頂いた。

準備会を担当したコアメンバーからは、「準備は大変だが、来てもらえてうれしい」「こうした機会を作って頂いたことは有難い」といった感想を頂いた。

○第27回準備会(8月 於:愛知県立大学)



会議の様子



小林准教授(県立大)から説明



次世代ロボット研究所を見学

○第28回準備会(10月 於:岐阜大学)



会議の様子



柳瀬准教授(岐阜大)から説明(左側)



応用生物科学部の研究室を見学

図 17 大学での準備会の様子

3) コアメンバー対象の企業見学会

コアメンバーに中部圏における社会資本整備の現状について見聞を広めてもらい、かつメンバー間の交流を促すことを目的に、コアメンバー対象の企業見学会を実施した。今年度は中部国際空港・セントレアを見学し、コアメンバーからは、通常は立ち入りできない滑走路から飛行機の離発着を間近に見ることができ、かつ空港内における各施設の役割が大変分かりやすく理解できたとのことご意見を頂いた。

(a) 見学会の様子



マイクロバスに乗って各所を移動



滑走路の中央では飛行機の離発着を間近で見学



空港会社の担当者から説明を聞くコアメンバー



降車できない箇所は車中から見学

図 18 企業見学会に参加するコアメンバーの様子

5. フォーラム活動から派生した事例

本フォーラムは、即物的な成果を求めないというスタンスで実施しているが、今年度を実施した活動から自発的に派生した事例を紹介する。以下は、参加者からの依頼で事務局が関係者を紹介したもののや、参加者からのヒアリングで得た情報などであるが、こうした事例は一部であり、実際にはより多くの事例が存在すると思われる。

図 19 派生した事例（一部）（○：企業の意見 ●：大学の意見）

- フォーラムでの講演を契機に、思わぬところから研究のヒントや研究の発展につながる新たな人脈を得ることができた。
- フォーラムに参加したことで、もともと親しい両者(大学と企業に所属する方)の間を取り持つ関係になった。
- フォーラムへ継続的に参加していることで、講師の方と業務上の相談ができています。
- フォーラムで弁護士の方にお会いし、仕事の相談をすることができた。
- フォーラムで講演したことにより、想定していなかった業種の方々からお問い合わせを頂いた。
- 大学主催イベントの運営に参考になる手法を紹介してもらった。
- フォーラムに参加して、大学の先生から開発業務に向けた発想や考え方を伺うことができた。

6. 総括

2016年度は、前年度から引き続き各大学の特色ある学部の先生の参加をお願いし、異業種・異分野の方にも分かるよう平易な内容にて講演等をいただいた。また、グループディスカッションやワークショップを取り入れ、懇親会時には、大学・企業PRコーナーや講演を行った講師による研究紹介コーナーを設ける等、参加者同士の会話・交流を促す仕掛けづくりに取り組んできた。特に今年度は、コアメンバー間のまとまりが良く、自身が担当するフォーラム以外の開催日にも積極的に参加する等、例年以上に大学側からの参加者が増加したことで、企業側の参加者に対しても多くの大学関係者との交流を深める機会を提供できたのではないかと感じている。

一方、講演のみのプログラムとなった実施日については、参加者数が伸びず、実施後のアンケートにおいても、参加者同士の会話・交流を促す仕掛けづくりを希望する声が相次いだ。多くの参加者がフォーラムの場において知識・教養を得るだけでなく、普段会うことができない業界の方々との交流を深めたいという意向をお持ちであることを改めて再認識させられた1年であった。

2017年度は、参加大学が2大学増え、21大学でコアメンバーを構成して本フォーラムを開催する予定である。引き続き、コアメンバー講演の他、グループディスカッションやワークショップ等、参加者同士の会話・交流を促す仕掛けづくりを取り入れていくとともに、参加者の見聞を広めるための施設見学会などの企画も実施していく予定である。今後も参加者の意見を取り入れながら内容をブラッシュアップし、幅広く参加者を募りながら、即物的な成果を目的とした取り組みとは一線を画した、緩やかな連携・交流の場としてフォーラムを発展・成熟させていきたい。

以上

2017年6月

一般社団法人中部経済連合会

〒461-0008 名古屋市東区武平町5-1

名古屋栄ビルディング10階

TEL : 052-962-8091 FAX : 052-962-8090